



★ 5さいYくんのママ

以前の息子は、何かお願いがあって話しかけてくるときも、共感を得たくて話しかけてくるときも、話しているうちに視線がふっとそれてしまったり、目をそらしたまま話しかけてきたり。

私が自分の目の横に手をあてながら「目を見て話すよ」とヒントをだしても、“手を目に当てること”だけを真似するばかりで、視線はそれたまま、なかなかうまくいっていませんでした。

りさせないからのアドバイスは、アイコンタクトがなければ、息子の話しかけに反応しないというもの。息子が気づくまでこちらは視線を送りながら待つ。言葉のヒントとしては、とぼけた感じで、「だれにお話ししているんだろ～」と言う。でも、アドバイスを実践するのは勇気がいりました。

息子はもともとお話ができないときがあったので、言葉を引き出すために息子の要望にはできるかぎり反応するという対応をしていたからです。「また話さなくなったらどうしよう」という不安がありましたが、せんせいから「そのときはもう過ぎているから大丈夫！」と力強く言われたのが心強かったです。

実際にやったのは、意識的に息子が私に要望をだす機会を作ったこと。最初の1週間は1日100回やると決めて関わりました。

大好きなプラレールで遊ぶときは息子が作った線路の上にわざと座ったり、遊んでいる車両から息子が少し手を離れたときに私が車両で遊び始めたり。そのときにしっかり目を見てお話ししないと「どいて」「返して」にも反応せず、「誰にお話ししているかお顔見てないからわかんないや～」ととぼけました。

この言葉がヒントになり、自分から目を合わせるようになりました。また、アイコンタクトなしに話しかけてきたときは、息子の顔をニコニコしながらじっと見つめていることで、息子がこちらの視線に気づいて「目を合わせなければいけなかった！」と思えるようになったみたいです。

ただ会話の最初は目が合ってもだんだんそれていってしまうので、語尾までしっかり目を見て話すというのを徹底しました。

それから少しずつ目が合っているとき間を延ばし、話しかけているときは相手の顔を見るようにしていきました。それから、話すときには相手の顔を見なければいけないということに気づいた息子は、その後、遠くに電車を発見したときも「だんしゃだ～ママみて～」と嬉しそうに言って、私の顔を見てくれるようになりました。

たまにこちらを見ていないときもまだありますが、私の反応がなかったり、「あれ？」と私がつぶやくと自分で考えて目を合わせるようになりました

